

第 2 章

平成 17 年度における大学評価委員会の活動について

大学評価委員会委員長
大塚 譲

平成 17 年度の大学評価委員会の活動を報告するに当たり、まず国立大学法人第一期(6年)における大学評価に関わる諸課題・諸作業の交通整理から始めたい。

平成 16 年に国立大学が法人化されて、自由裁量の拡大による教育・研究の活性化が図られる一方で、大学運営全般の質を保證する評価の実施が法令により定められた。評価には、大学自身が自主的に行う外部評価と法令によって実施が義務付けられた第三者評価があり、後者には、文部科学省による中期目標に関わる業務実績評価(いわゆる法人評価)[6年毎]及び認証評価機関による大学機関別認証評価(いわゆる認証機関評価)[7年以内毎。専門職大学院は5年以内毎]がある。通常、自己点検・評価の評価結果に基づいて外部評価による検証を受け、この検証を経た自己評価結果に基づいてさらに第三者評価を受けるというプロセスを辿る。従って他の国立大学法人と同様本学にとっても、第三者評価に耐える自己点検・評価の体制を学内に構築することが急務となっていた。

大学評価委員会では、平成 16 年度以来、平成 21 年度に待ち構える法人評価及び認証機関評価に備えて、着々と自己点検・評価の学内体制を整えてきた。平成 16 年度には 自己点検・評価システムの骨格が形成され、平成 17 年度には 自己点検・評価の実施体制が構築され、この平成 18 年度にはいよいよ 自己点検・評価が実施される運びとなっている。やや具体的に言えば、平成 16 年度の大学評価委員会は、本学における研究評価の指針を示した「本学における研究評価のあり方について」を策定し、また大学評価実施規程第 11 条第 1 項において大学運営全般について自己点検・評価を行うための実施事項及び評価項目を規定した。ここにおいて本学が自己点検・評価を実施するに当たってのいわば土台が構築されたと言えよう。平成 17 年度の大学評価委員会に託された課題は、この平成 16 年度大学評価委員会が構築した土台の上に自己点検・評価の実施体制を作ることであって、(イ)研究の自己点検・評価のスムーズな実施に資する「研究評価実施要項」を作成し、(ロ)また本学の研究内容の組織評価の基礎となる「研究者情報データベース」システムを構築し、(ハ)さらには教育の自己点検・評価のスムーズな実施に結びつく「教育評価実施要項」の素案作成に携わることになったのは当然の成り行きであった。そして平成 18 年度大学評価委員会の手によって、(イ)夏以降に研究に関する自己点検・評価の作業が開始され(実施主体による研究関連自己評価の記述作業と各教員による研究データの打ち込み作業、

これらの作業の集成に基づく大学評価委員会による自己評価書の作成) (ロ)秋以降には教育に関する自己点検・評価の作業が開始され(実施主体による教育関連自己評価の記述作業と在学生・卒業生・地域・就職先企業関係者等を対象とした意識調査等、さらに大学評価委員会によるこれらの作業の集成に基づく自己評価書の作成) さらにその他の自己評価実施事項(「社会との連携」「国際交流等の推進」「施設・設備」「財務」「管理運営」「情報公開等の推進」「安全管理」)についての自己評価結果をも含めて、法人第一期における大学運営全般に関わる自己評価書が取りまとめられよう。この自己評価書に基づいて平成19年度以降に外部評価、法人評価(文部科学省の法人評価委員会による)、大学機関別認証評価(認証評価機関による)を相次いで受けることになる。

というわけで平成17年度の大学評価委員会はその活動の大半を研究評価実施要項の作成に費やすことになり、年が明けてからラストスパートをかけて何とか教育評価実施要項の概要のとりまとめにまで漕ぎ着けることができた。またその間同時並行で研究評価実施に向けた「研究者情報データベース」システムの構築に取り組んだ。さらには研究活動情報以外の大学情報を一元的に管理できる「大学情報データベース」システムの構築についても鋭意検討を進めてきた。

研究評価実施要項と教育評価実施要項素案の策定に当たって特に留意したのは、第一に実施主体が担当の評価項目を明確かつ速やかに知ることができること、第二に実施主体が担当の評価項目に関してどの欄に・何について・どのように・自己評価を記述すべきかについて速やかに理解し作業に着手することができること、第三に上記二点の実現を最重視し一切手抜きをしないこと、もし万が一今後ユーザーである実施主体に使い勝手の悪い点が現れたならば、その都度速やかに手直しすること、であった。

最後に、平成17年度の大学評価委員会の活動リストを示しておく。ただし、「自己評価要項の作成」という極めて地味で細かい作業が仕事の中心を占めたので、表に現れた委員会の開催回数そのものは極めて少ないものの、実際には改善のための区々たる手直し作業に明け暮れたといっても過言ではない。この煩雑を極める仕事をほぼ計画通りに遂行できたのも、技術力の乏しい私を終始サポートしてくれた企画・評価室の貢献によるところが大きいことを付記しておく。

平成17年度大学評価委員会活動内容

大学評価委員会活動内容

開催回数

| | | |
|------------------|---|----|
| 大学評価委員会 | : | 4回 |
| 評価項目・フィードバック専門部会 | : | 2回 |

データベース専門部会 : 1回

主要審議内容

- 研究評価実施要項の作成
- 研究者情報データベースの構築
- 教育評価実施要項素案作成
- 平成18年度・年度計画の確定

次年度への引継事項

平成17年度に作成した研究評価実施要項及び研究情報データベースを用いて自己点検評価を実施する。

本学の教育評価実施要項を作成する。

教育に関する自己点検・評価について、教員、在校生、卒業生、地域及び就職先等に対する意識調査を踏まえる方法についても検討する。

本学の教育評価実施要項に基づき自己点検評価を実施する。

- 研究者情報データベースを拡張し、大学情報を一元的に管理できる「大学情報データベース」の構築を検討する。